

客体変化動詞 *mettre* と始動表現 *se mettre à inf.*

佐々木 幸太
(関西学院大学大学院)

フランス語では, 事行主体 X が対象 Y を場所 Z に移動させることを表す場合に, *mettre* を用いることがある.

(1) *Voulez-vous mettre du sucre dans votre café ?*

(2) *Elle a mis des gants.*

(1)であれば, X が Y を移動させ, その結果, 「Y が Z にあること」が実現する. また *mettre* は(2)のように衣料品 Y を身につける場合にも用いることができる. 辞書の記述や発話例の分析などからも, *mettre* の基本義は対象物を移動させることで Y のありかたを変えることを表す客体変化動詞であるといえる.

また X によって Y が移動させられない場合でも *mettre* を用いることがある.

(3) *Il ne faut jamais mettre son chat en colère.*

(4) *Pour acheter une voiture, il s'est mis à travailler encore plus.* (谷口, 1991)

(3)であれば, X が Y の状態を変えることを表すために *mettre* を用いている. そして(4)のように行為の始動を表す場合にも *mettre* を用いることがある.

本発表の目的は Y の空間移動が基本義であるとされる *mettre* が, *se mettre à V.inf.* というアスペクトマーカの形成に役立つ仕組みを, 発話例 (コーパスは, おもに現代フランス語の小説約 750 冊と新聞) の分析にもとづいて明らかにすることである.